

地域移行を目指す若手障害当事者の発掘・育成のための相互研修活動事業

社会福祉法人 AJU 自立の家

〒466-0037 愛知県名古屋市中区恵方町 2-15

助成事業の概要

本事業では、障害当事者の地域移行に対する意欲を喚起すべく、そのロールモデルとなりうる「若手障害当事者の発掘・育成」を大目標として、県内の特別支援学校の（元）生徒、教員、家族等を念頭に、こうした方々と地域生活実践者との相互研修の場を創出・提供することにより、地域生活実践のノウハウ等について理解を深める「きっかけづくり」の一助とすることを目的としました。事業の内容・時期等については、下記のとおりです。

（事業 A）愛知県内の特別支援学校・学級への訪問・見学・研修会

- ・小牧特別支援学校／11月12日／講師4名／参加者15名
- ・港特別支援学校／12月9日・16日／講師各4名／参加者各16名

（事業 B）愛知県内外の障害当事者団体への訪問・見学・研修会

- ・自立生活夢宙センター／8月8日／講師10名／参加者2名（介助スタッフ3名）

（事業 C）愛知県内外の障害当事者団体の招待・見学・研修会

- ・ピアサポートみえ／1月19日／講師2名（スタッフ3名）／参加者3名

（事業 D）愛知県内の地域生活実践者のお宅への訪問・見学・研修会

- ・Uさん／2月17日／講師1名（スタッフ2名）／参加者2名
- ・Tさん／3月23日／講師3名（スタッフ3名）／参加者2名

事業の成果

（事業 A）愛知県内の特別支援学校・学級への訪問・見学・研修会

・特別支援学校の生徒を対象に「僕らのワンルーム大作戦」と題し、家具・家電のイラストを用いて自分の部屋を作ってもらいました。タブレットで好きな家具や家電を選んでもらい、金額を調べたり、一人暮らしに必要な準備をイメージしてもらうことで、自立への第一歩に繋がっていくことができました。

（事業 A）愛知県内の特別支援学校・学級への訪問・見学・研修会

・特別支援学校高等部の生徒を対象に、二週にわたり、生活・就労をテーマに交流企画を実施しました。事前に画像・動画資料作成をしたことにより、多くの質問が寄せられました。また、和やかな雰囲気の中で双方向の交流ができ、各テーマへの関心や理解の向上につながりました。将来の目標が明確な生徒も多く、そのロールモデルとして、将来像について具体的に伝えることができました。

〔事業 B〕愛知県内外の障害当事者団体への訪問・見学・研修会

・大阪の自立生活センターを特別支援学校高等部の生徒および大学院志望の若手障害当事者が訪問し、「地域生活移行支援について」「若手当事者リーダーとして」といったテーマで講話を拝聴しました。また、「居楽屋ごりら」にて夕食交流会を行いました。参加者からは「自律とは何か、を考えた」「自律とは楽しむことから始まるということが原点だと改めて学んだ」といった感想が聴かれました。

・研修後、他のイベントで同団体と再会し交流する機会にも恵まれました。また、研修での学びや成果を発表するなかで、発表を聴いた方々より「自分も行ってみたい」という声が挙がり、縦横のつながりの創出および循環の相互作用が見られました。

〔事業 C〕愛知県内外の障害当事者団体の招待・見学・研修会

・三重の障害当事者団体に来訪いただき、当法人事業所の事業説明や館内見学を実施しました。館内見学では、実際に福祉ホームに入居している若手当事者が案内役を担いました。また、同じ自立生活体験室事業を行っている事業所同士で取り組みを共有し合い、学ぶことができました。なお、「自分史」を発表する機会も設け、自身の半生を語ることでできる人材の発掘・育成を行いました。

〔事業 D〕愛知県内の地域生活実践者のお宅への訪問・見学・研修会

・特別支援学校の学生とそのご家族を対象に、地域で一人暮らしをしている先輩講師3名のお宅を訪問し、交流する機会を設けました。当日は、講師が一方向的に話す場にならないよう配慮しながら進行し、介助者を利用した入居生活について具体的に伝えつつ、参加者からも、志望大学や興味関

心について事前の打ち合わせ以上に積極的に発言・交流する様子が見られました。振り返りでは、講師側からは「時間が持つかドキドキしたが、案外あっという間だった」「機会があればまたやりたい」、参加者側からは「緊張が和らいだ」「とても参考になった」といった感想が聴かれました。

〔事業 D〕愛知県内の地域生活実践者のお宅への訪問・見学・研修会

・ご家族と暮らされている方とそのご家族を対象に、お宅訪問・見学会を行いました。ご本人より「地域で一人暮らししている方のお宅訪問をしてみたい」とのお話があり、地域で一人暮らしをしている講師のご自宅を訪問、部屋の改修箇所や、実際にヘルパーさんを利用して調理の指示をしている姿を見学しました。参加者からは「今までの一人暮らしに対する漠然とした不安感が無くなり、実際に一人暮らしにかかる費用と今の私の収入、そして私が楽しむためのこだわりポイントなどを考えるようになりました」との感想が聴かれました。

成果の広報・公表

・本事業の成果については、社会福祉法人A J U 自立の家サマリアハウスにおいて、部署内でのミーティングや日中の生活介護の時間を活用し、そのスタッフおよび利用者等に、広報・公表、周知を行いました。

・なお、広報・公表、周知を行うにあたっては、上記の事業ごとに、実施に携わったスタッフのみが関与するのではなく、実際に研修の講師あるいは参加者として本プログラムを経験した若手障害当事者にも、可能な限り、積極的に関与し、自らの経験を自らの声で語る機会を設けることができるよう働きかけました。また、その成果をまとめた資料と一緒に作成・発表する機会を複数回、

持ちました。

・こうした成果の広報・公表の取り組みを通じて、今後、同様の事業を実施するにあたり、記憶を記録に残し、今回の事業では講師あるいは参加者として携わらなかった方々も、次回以降、本プログラムへの参画を検討するうえで、その意欲を喚起する一助とすることができました。

■ 今後の展開

・この度、日本社会福祉弘済会様より助成をいただいたことにより、地域生活実践のノウハウ等について理解を深める「きっかけづくり」の一助を目的とした「四本柱」の取り組みを志向し、相互研修活動事業という形で実施することができました。

・しかしながら、まだ道半ばです。当法人として、障害当事者の地域移行の促進に向け、その意欲を喚起すべく、ロールモデルとなりうる「若手障害当事者の発掘・育成」を大目標として、来年度以降も、この取り組みを継続していきたいと考えております。

・本事業を通して、発掘・育成をすることができた若手障害当事者、関係団体等との繋がりを絶やすことなく、来年度以降も協力関係を保ちつつ、さらなる発掘・育成に向けて、共に事業を発展させていきます。

・上記「四本柱」の取り組みのうち、とくに[事業A]では、当初の予定を上回る二校との繋がりを醸成することができ、ニーズの高さをうかがうことができました。その一方で、とくに[事業D]では、当初の予定を下回る2回の開催に留まりました。地理的な隔たりやプライベートな空間に立ち入ることの躊躇いを越えて、個別のニーズをいかに捕捉し充足するかが大きな課題であり、今後、改善策を検討し、講じていきます。

・この度は、本当にありがとうございました。